

沖縄辺戸岬における大気化学/放射に関する総合観測 Comprehensive observations of atmospheric environment at Cape Hedo Atmosphere and Aerosol Monitoring Station

清水 厚^{1*}, 高見昭憲¹, 佐藤圭¹, 畠山史郎²

SHIMIZU, Atsushi^{1*}, TAKAMI, Akinori¹, SATO, Kei¹, HATAKEYAMA, Shiro²

¹ 国立環境研究所, ² 東京農工大学

¹National Institute for Environmental Studies, ²Tokyo University of Agriculture and Technology

国立環境研究所 (NIES) では、沖縄県国頭村に辺戸岬大気・エアロゾル観測ステーション (Cape Hedo Atmosphere and Aerosol Monitoring Station:CHAAMS) を開設し、2005 年以降大気中のエアロゾル・微量気体・放射・気象要素などの定常観測を行っている。沖縄本島の北端に位置する CHAAMS においては、日本国内を発生源とする汚染物質等の影響を受けることなく東アジア領域スケールの大気環境変動を中長期的に監視することが可能となっている。また、サイトにおける観測は NIES によるものだけではなく、大学・研究機関等の持ち込み機器によっても実施されており、共同利用が幅広く進められている。観測の手法としては地上連続モニタリング、フィルターサンプリング、リモートセンシング等多岐にわたり、航空機キャンペーン観測との連携も数度に渡り行われた。また CHAAMS は UNEP/ABC(国連環境計画大気褐色雲) プロジェクトの観測拠点とされている他、総合科学技術会議「地球観測の推進戦略」に基づく文部科学省地球観測推進部会の「地球観測の実施計画」でも取り上げられている。本発表では、これまでに実施した観測項目を紹介し、大気科学研究における定常観測拠点の重要性を明らかにする。

キーワード: エアロゾル, 放射, 微量気体, 東アジア, モニタリング

Keywords: aerosols, radiation, minor constituents, East Asia, monitoring